

回路シンボルを理解しよう！

押しボタン



AutoCAD Electrical の回路シンボルはコンポーネントと呼ばれています。ヘルプを参照する場合、コンポーネントと入力しないと表示されません。

コンポーネントはシンボル形状と属性をブロック化したオブジェクトです。名称の決められた属性には役割があり、例えば器具番号を表示する属性は TAG1 又は TAG2、部品情報を入力する属性は CAT 、配線の接続点を指定する属性もあります。

自社シンボル作成の為にまずは基本を理解しましょう。

① シンボルは AutoCAD のブロック

AutoCAD は開いている図面 (dwg) に他の図面 (dwg) を挿入すると挿入された図面はブロック化されます。簡単に言えば 1 つのオブジェクトとして塊の状態となります。これがシンボルです。

シンボルの仕組みを理解するには既存のシンボルを開いてみると良いでしょう。

例えばシンボルライブラリの HPB11.dwg を開くと、シンボル形状と属性が登録されている状態です。ブロック化されてはいません。他図面に挿入されてシンボルとなります。

② 回路シンボルには命名規則がある

回路シンボルにはいろいろと制約がありますが、一番の制約は登録名称です。勝手な名前で登録してもシンボルとは認められません。

1 文字目: 水平垂直を定義

2、3 文字目: カタログ参照テーブル名

4 文字目: 親子を定義

5 文字目: 必要な場合、A 接点か B 接点を定義

全部で 32 バイト以内

ルールを守らないとシンボルとして正しく動作してくれません。

③ 必須属性を理解する

登録する属性名も決まりがあります。必須属性は TAG 属性です。

どの属性をどこに配置するかわからない場合には既存シンボルを参照しましょう。もちろんヘルプには詳細が記載されています。

シンボルビルダを使用するとある程度必要な属性を見分けることができます。

回路作図に必要なシンボルが存在しないと、そこであきらめてしまうこともありますので、必要最低限のシンボルは作成してから運用しましょう。